

第2学年英語科学習指導案

平成29年5月31日 第6校時

2年1組 生徒数29名

場所 2階英語教室

指導者 浦田 国宏 印

T2 近森 勇太 印

学習指導要領

言語活動の指導事項 イ 話すこと

(ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

1 単元名 Sunshine English Course 2 PROGRAM 3 What Can We do for Others

○単元観

本単元ではチャリティ・ウォークについての紹介や、武史とリサが自分たちでチャリティ・イベントを企画する話を取り上げられている。その中で世界や地域に目を向けて、社会の中で自分たちがどのように貢献することができるのかということについて考えることのできる単元だといえる。

言語材料としては、命令や義務を表す **must** や義務や必要性を表す **have to**、また自分の考えを示すための **think that** を用いた表現を学習する。そこで新出言語材料を用いて、世界で起こっている問題に対して自分たちがどのように行動を起こせるかといったことや、自分たちが地域にどう貢献していけるのかということについて自分の話す活動を通して、学習指導要領に示された言語活動「話すこと」－(ウ)「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする」力を養うことができる単元である。

○生徒観

本学級の生徒は、1年次の基礎的な事項の学習の定着に課題があり、学力の2極化が見られる。しかし、2年になってからは積極的に授業に取り組むことができている。特にパターンプラクティスなどの活動では、よく声を出して練習することができる。しかし、自分で考えて、自分の意見を話す活動では積極的に取り組むことができない生徒が多く、間違えることを恐れているということや、学習内容をどのように活用すればよいのか分かっていないということが予測される。

5月に行った意識調査では英語の「授業が好きだ」という質問に対して肯定的な回答をしている生徒が約7割、「授業に進んで参加している」という質問に対しては全員が肯定的な回答をしている。また、「授業の中で積極的に英語を話している」という質問に対する肯定的な回答は約5割であった。このことから、授業には積極的に参加することができるが、英語を「話す」ことには生徒の約半数が苦手意識を持っており、授業の中でも自ら話そうとしていないことが分かる。話そうとする態度の育成のために、間違いを恐れずに話している姿を評価することや、口頭練習などでもただ文を提示するのではなく、具体的な場面を設定することで、その言語の使用場面を意識させながら練習していけるように心がけたい。

○指導観

本単元の単元目標は世界や地域に目を向け、自分たちが社会にどう貢献することができるのかということについて自分の意見を述べることである。本単元のゴールを達成するために、**must** や **have to** を用いて命令や義務、必要性について伝えるための表現や、**think that** を用いた自分の考えを伝えるための表現を用いて、世界や日本で起こっている問題や高知県、土佐清水市のことなどを取り上げて、社会に貢献するために自分たちはどう行動を起こすべきなのか、自分の意見を伝えあう活動を行う。文法導入の際には生徒にとって興味深く、身近なものを扱い、生徒が学習内容をイメージしながら学習していけるような導入を図る。また ICT の効果的な活用によって資格からも生徒に情報を与え、学習内容へのより深い理解を促したい。活動の中では教師・生徒間、生徒・生徒間でのコミュニケーション活動を多く入れ、コミュニケーション活動の中で学習する表現に慣れさせることができるように活動を工夫する。基礎的な知識を身につけた後は、本単元の目標である「世界や地域に目を向け、自分たちが社会にどう貢献することができるのかということについて自分の意見を伝える」を達成するために、身近な場面を設定し、自分たちはどのような行動を起こさなければならないのか考えさせ、伝えあう活動を行う。また、話した内容についてノートにメモを取らせるなど、「話す」ことから「書く」ことへの指導にもつなげていきたい。

本時（1 / 7）は生徒の実生活との関連を図りながら ICT や資料などを用いて、**must** を用いた命令や義務を表す表現を導入し、学習内容への意欲付けを図る。また、基礎的な表現に慣れさせた後で、場面をいくつか設定し、その場面では自分たちはどう行動しなければならないのかを考え話す活動を行う。

○can-do リストとの関連

2年「話すこと」

与えられたテーマ（将来の夢など）について、10～20 文程度の英文でスピーチができる。

（本単元では「話す」ことから「書く」ことにつなげたいため、書かずに話すことを意識して指導に当たる。）

○小学校外国語活動との関連

土佐清水市教育研究集会外国語部会の活動の中で、何度か外国語活動の授業を参観してきた。その中で、外国語活動の中では説明よりも英語の音やターゲットにしている表現に慣れさせることに重きを置いて、チャンツや歌、ゲームなどの活動が多く取り入れられているというような感想を持った。中学校ではそこから1段階進み、実際の言語使用の場面でその英語を使うということが必要だと考える。そのために、ただ練習をしたり楽しい活動を入れるのではなく、何のためにその表現を用いるのか、どのような場面で用いることができるのかという、言語使用の場면을意識した活動を設定していきたいと考えている。

また、小学校外国語活動の中で **can** が扱われてるため、導入で **can** を用いたスライドと **must** を用いたスライドを使い、その意味の違いなどに気付かせるとともに、表現の幅を広げていきたいと考えている。

2 単元目標

- **must** や **have to**、**think that** などの表現を用いて、社会に対して自分たちがどう貢献していくべきなのか自分の意見を述べる。
- 学習したことを活用して、間違いを恐れずに自分の考えを積極的に英語で述べる。
- **must** や **have to**、**think that** などの表現を用いた文の構造を理解する。

3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①学習したことを活用して、間違いを恐れずに自分の考えを積極的に英語で述べている。	① must や have to 、 think that などの表現を用いて、社会に対して自分たちがどう貢献していくべきなのか、3 文程度で自分の意見を述べることができる。	/	① must を用いた文の構造を理解している。 ② have to を用いた文の構造を理解している。 ③ think that を用いた文の構造を理解している。

4 指導と評価の計画（全8時間）

時	学習内容	評価 総括的評価、(形成的評価)					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
1 本 時	PROGRAM 3-① ☆本単元のゴールや学習活動などについて見通しを持つ。 ・ must を用いた表現に慣れるためにパワーポイントを見ながら口頭練習をする。 ・与えられた場面では自分たちはどう行動しなければならないのかペアで伝えあう。 ・話した内容についてメモを取り、グループ等でシェアをする。				○	エ① (<input checked="" type="checkbox"/> 状況に沿って、 must を用いた文を正しく書けている。)	後日ペーパーテスト(ノート点検)

2	<p>PROGRAM 3-①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を振り返りながら問題を解く。 ・新出語句を学習する。 ・マウイ島で開催されるチャリティ・ウォークについての文を読み、参加のためにしなければならにことなどを読み取る。 ・本文の中で書かれている内容について、参加者の目線で、その活動を紹介する(リテリング)。 ・リテリングした内容をノートに書く。 				<p>エ①</p> <p>○ (形)チャリティ・ウォークについて、自分が参加者であるという目線で、mustを用いた紹介文が正しく書けている。)</p>	<p>後日ペーパーテスト(ノート点検)</p>
3	<p>PROGRAM 3-②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・have toを用いた表現に慣れるためにパワーポイントを見ながら口頭練習をする。 ・場面に合わせて、自分たちはどのような行動をとる必要があるのか考え、ペアや全体で伝えあう。 ・話した内容についてノートにメモを取り、グループなどでシェアをする。 				<p>エ②</p> <p>○ (形)状況に沿って、have toを用いた文を正しく書けている。)</p>	<p>後日ペーパーテスト(ノート点検)</p>
4	<p>PROGRAM 3-②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を振り返りながら問題を解く。 ・新出語句を学習する。 ・世界的なチャリティ・ウォークである”Walk the World”についての武史とリサの会話を読み、内容について読み取る。 ・なぜそうしたイベントがあるのか考え、自分たちはどのような行動を起こす必要があるのか、自分の意見を伝えあう。 	○			<p>ア①</p> <p>(形)have toを用いて、課題に対する自分の意見を、間違いを恐れずに積極的に述べている。)</p>	<p>後日意見発表(活動観察)</p>

5	<p>PROGRAM 3-③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ think that を用いた表現に慣れるためにパワーポイントを見ながら口頭練習をする。 ・ 与えられた身近なもの（高知県のことや土佐清水市のこと、自分の生活のことなど）について、自分が取り組めることなどを考え、意見をペアやグループで伝えあう。 ・ 話した内容についてノートにメモを取り、グループなどでシェアをする。 				<p>エ③ ○ (形)与えられた課題に対して、think that を用いた文を正しく書けている。)</p>	後日ペーパーテスト（ノート点検）
6	<p>PROGRAM 3-③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の内容を振り返りながら問題を解く。 ・ 新出語句を学習する。 ・ 武史とリサが自分たちでチャリティ・イベントを企画している文を読み、武史やリサの考えを読み取る。 ・ 地域に対して自分たちがどう貢献できるのか、think that を用いて、自分の意見を述べる。 		○		<p>イ① (形)与えられた課題に対して、think that や must、have to、教科書で用いられている表現を活用して、自分なりの意見を3文程度で話すことができる。)</p>	後日パフォーマンステスト（活動観察）
7	<p>意見発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の課題として提示される英文を読み、課題が何なのかを捉える。 ・ その課題に対する教師の意見を読む。 ・ ABCD フォーマットに沿って、自分の意見をペアで伝えあう。 ・ 意見を修正する。 ・ 与えられたテーマに対して、自分はどう思うのか、自分たちはどう行動を起こすべきなのかを考え、自分の意見を3文程度で述べる。 	○			<p>ア① (課題に対する自分の意見を、間違いを恐れずに積極的に述べている。)</p>	発表

後日	パフォーマンステスト		○		イ① (与えられた課題に対して、 think that や must, have to 、教科書で用いられている表現を活用して、自分なりの意見を3文程度で話すことができる。)	パフォーマンステスト
後日	ペーパーテスト			○	エ① (must や have to, think that などの表現を用いた文を正しく書けている。)	ペーパーテスト

5 本時の指導

(1) 本時の目標 与えられた状況に沿って、**must** を用いて自分の意見を述べる。

(2) 観点別評価規準 エ① (状況に沿って、**must** を用いた文を正しく書けている。)

(3) 準備物 ワークシート、パワーポイント資料

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
導入 (5分) ・あいさつをする。 ・パワーポイントを見ながらペーパートークをする。	・英語を用いてあいさつや生徒とのスモールトークをし、英語を学習する雰囲気を作る。 ・既習事項やこれから学習する内容と関連付けた題材を扱う。 ・ How about you? など聞き返す表現も使わせる。		
展開 (40分) ・パワーポイントを見ながら、本時の学習内容に対してイメージを持つ。	・信号機など身近なものから導入し、日本語での説明なしで生徒の理解を深めていけるようにする。 ・全て教師が発信するのではなく、生徒にも意見を求めながらスライドを進める。 ・生徒の活動をしっかりと見て、		

	<p>理解が十分でない生徒がいる場合には、ペアで確認させる。</p>		
<p>・本時のめあてを確認する。 社会の中で、自分たちがどう行動しなければならないのか考え、伝えあおう。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを見ながら、must を用いた表現を口頭練習する。 ・パワーポイントやワークシートで示されている状況に沿って自分たちはどうしなければならないのか考え、ペアで伝えあう。 ・学習内容について教師のまとめを聞き、ノートにメモを取る。 ・社会の出来事などについて考え、自分たちはどういった行動をとらなければならないのか考え、自分の意見を伝えあう。(ペア→グループ) ・自分の意見を黒で、活動の中で得た意見を赤で、ノートにメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ文を与えて口頭練習するのではなく、場面を意識したスライドを用意する (must を用いる必要のある前後の状況を設定する。) ・生徒にとって身近な場面や興味を引くような場面を設定し、生徒が自ら話そうとするように促す。 ・間違えてもかまわないことを全体で確認してから、ペアワークに入る。 ・学習内容への理解が十分でない生徒についてはペアや T2 などで支援する。 ・説明に偏らず、生徒と対話的にまとめていく。 ・must を用いた 1 文での意見でも構わないことを全体に伝える。また、さらに深く伝えるためには because を用いることができることを全体で共有し活動に入る。 ・友達の意見をメモする時には、その友達に教えてもらいながら書いてもかまわないことを全体に伝える。 ・学習内容への理解が十分でなく、自分の意見を持っていない生徒については、友達の意見を教えてもらい、写すことを促す。 	<p>エ① 形状況に沿って、must を用いた文を正しく書けている。</p>	<p>後日ペーパーテスト (ノート点検)</p>

<p>終末（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・次時の内容についての教師のアナウンスを聞き、次時へのイメージを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容について肯定的に評価し、生徒の意欲を高めるとともに、振り返りの視点について全体に伝える。 		
---	--	--	--

7. 板書計画

<p>めあて 世界に目を向けて、自分たちがどう行動すべきなのか考え、伝えあおう。</p>	
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>まとめ</p> <p>must: ~しなければならない (命令・義務)</p> <p>【例】 I must do my homework. 「私は宿題をしなければならない。」</p> <p style="padding-left: 20px;">* must の後ろは動詞の原形</p> <p>We mustn't swim in this river.</p> <p>「私たちはこの川を泳いではいけない」 (禁止)</p> <p>Must I clean my room?</p> <p>「部屋の掃除をしなければいけませんか？」</p> </div>	<p>生徒の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・